

事務事業名		塩谷町図書館運営事業(体制整備)				<input checked="" type="checkbox"/> 事後(中間)評価対象事業			
総合計画	政策名	0:2: 豊かな人を育むまちづくり				所属課	生涯学習課	担当	生涯学習担当
	施策名	0:3: 生涯学習環境の充実				課長名	関 雄治	担当者名	川上 誉之
予算科目		会計	款	項	目	事業	事業コード名	関係法令・条例等	
		0:9	0:4	0:2	0:0	0:3	公民館図書室運営費	社会教育法・図書館法・塩谷町図書館条例	
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ		<input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度		年度)	<input type="checkbox"/> 期間限定 ( 年度~ 年度)		
事務事業の概要(事務事業の内容を記載)		<p>1 事務事業概要  塩谷町図書館は本年4月1日より開館したが、以前の町公民館図書室より利用者数・貸出冊数ともに増加している。また、開館時間も9時から19時までと従来より2時間延長(平日のみ、土日は17時)したため事務時間を含め全体的な事務量も増加しました。  現在の図書館に係る職員の配置については、臨時職員1名が火曜日から土曜日の9時から16時までに行い、臨時職員がいない平日の4時間、土曜日の2時間及び日曜日の8時間については生涯学習課と学校教育課の職員で対応していますが、時間になったら図書館に向かわなければならず、それまで行っていた業務が中断してしまうなど本来の業務にも支障をきたしている。  以上のような理由により平成25年度から図書館臨時職員を2名体制にすることを企画するものである。</p> <p>2 概算事業費  800円×10h×22日×12ヵ月=2,112,000円</p>							

(1) 事務事業の目的と指標		(4) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
① 活動の計画(活動の量・大きさ・規模等) 図書書の貸出・返却・登録や調査回答など図書業務に係る事務量		名称	単位
		ア開館日数	日
		イ作業時間	時間
② 対象(事業は誰・何を対象にしているのかを記載) 町民 利用者(延べ)		名称	単位
		ア町民	人
		イ利用人数	人
③ 目標(この事業によって、対象をどうしたいのか記載) 利用冊数の増加 利用率の増加		名称	単位
		ア利用冊数	冊
		イ	

(2) 指標・総事業費の推移		単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成32年度 総合計画 最終年度
活動指標	ア	目標値 日	304	289	290	290	290	290
	イ	実績値 日	280	279				
対象指標	ア	目標値 時間	1,440	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640
	イ	実績値 時間	2,732	2,724				
成果指標	ア	目標値 人	13,000	12,940	12,880	12,820		12,500
	イ	実績値 人	12,728	12,480				
成果指標	ア	目標値 冊	7,600	7,900	8,100	8,300	8,500	8,800
	イ	実績値 冊	10,036	11,424				
成果指標	ア	目標値 冊	12,000	12,300	12,600	12,900	13,200	14,400
	イ	実績値 冊	16,252	16,086				
成果指標	ア	目標値 冊	0					
	イ	実績値 冊	0					

計画		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成32年度	
事業費 投入量	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	1,196	1,913	2,112	2,112	2,112	2,112
	事業費計(A)	千円	1,196	1,913	2,112	2,112	2,112	2,112
	正規職員従事人数	人	13	4	0	0	0	0
延べ業務時間	時間	1,500						
人件費計(B)	千円	6,000						
トータルコスト(A)+(B)	千円	7,196	1,913	2,112	2,112	2,112	2,112	

実績		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成32年度
事業費 投入量	国庫支出金	千円					
	県支出金	千円					
	地方債	千円					
	その他	千円					
	一般財源	千円	1,196	1,913			
	事業費計(A)	千円	1,196	1,913	0	0	0
	正規職員従事人数	人		4			
延べ業務時間	時間						
人件費計(B)	千円	0	0	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,196	1,913	0	0	0	

評価項目	説明	事前評価結果	実施後の状況	事後評価結果
目的 妥当性 評価 ① 公共関与の妥当性 なぜこの事業を町が行わなければならないのですか？税金を投入して、達成するものですか？	町立の図書館運営に関するものである ので妥当である。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	開館時間内にフルタイムで専門職 員を配置することにより事務の効率 化の是正や利用者の利便性が向 上した。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
有効性 評価 ② 着手・実施の必要性 この事務事業をなぜ着手・実施し なければならないのか？先延ばしに できない理由は何か？	1日(10時間)の開館時間のうち4時間 も専任に事務を行う職員がいない事 態となっており、早急に着手しなけ ばならない。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	専任職員を置くことにより、職員が 本来の業務を行う事が出来るので 図書業務だけでなくその他業務に ついては適正な執行が図れた。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
効率性 評価 ③ 総事業費の算定根拠 算定にあたってコスト削減策を考 えたか？将来のコスト増要因に対 して対策が考えられているか？	週5勤務としてそれに開館時間(9時 から19時の10時間)をかけて算出 した。正規職員が対応するよりはる かにコストが安価である。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	臨時職員賃金を支出額により算定 した。一般職員が17時から対応 していたため支出していた時間外 勤務手当の支出よりはるかに安価 であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
公平性 評価 ④ 受益と負担との関係 事業の内容は受益と負担との公 平性が考慮されているか？	開館時間に臨時職員を配するだけ であるので公平性は考慮されている。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	公共図書館であるので町民全て が対象であり、またコスト削減や 事務効率化を図れたことから公平 性は保たれていると考える。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり

### 3 事前評価結果

事前評価日： 平成 25 年 1 月 4 日

(1) 事前評価者として判断した今後の事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 1次案のまま採択 <input type="checkbox"/> 下記条件で採択 <input type="checkbox"/> 不採択 <input type="checkbox"/> 差し戻し	
(2) 採択条件	(3) 指示事項(事務事業に関する指示、事後(中間)評価日程等) ・臨時職員が不在となる16時以降は、生涯学習課及び学校教育課職員が対応しているが、通常業務に支障が出る、振替の休暇を取得できないなど、苦慮している状況から、2名体制にすることは妥当と判断できる。  ・次年度事後評価を実施するが、評価は、公民館図書室運営事業のマネジメントシートで実施する

### 4 成果検証

事後(中間)評価日： 平成 26 年 7 月 1 日

事務事業実施後の概要 (実施しての効果、受益者等の反応、問題点、課題等を記載)	臨時職員を2名配置し時間内フルタイムの対応が取れたことにより、それまで平日5時過ぎは生涯学習課及び学校教育課職員、土曜日については生涯学習課職員が対応していた図書窓口業務の負担がなくなった事により、時間外勤務により支出額の削減によるコストの軽減だけでなく、窓口業務を行ったがために出来なかった本来の業務を行えるようになったことにより、図書以外の業務についても事務効率の向上が図れた。このことにより、全体的に受益者(町民)の利益は向上したと考えられる。 また、図書館利用者についても図書専門の臨時職員が常時いる事により利便性が向上したと考えられる。 課題としてはやむを得ないと思うが、2名によるフルタイム勤務の体制であるので余剰人員がおらず、臨時職員が休暇を取得した際には正規職員が対応しなければならず、特に秋口からの業務多忙時期については対応が難しい状態であった。 なお、事業費については一見するとH24よりH25の方が増えているように見えるが、算出データが図書事業費の賃金からのものであり、実際はこれに平日5時からの学校教育課職員及び生涯学習課職員の時間外勤務手当が加わるので実績で算出している金額よりはかなり増大する。
--	--

### (1) 評価結果(今後の方向性)

優(成果大)     良(良好)     可     不可(成果なし・中止・計画変更必要)

(2) 総評 人的整備が進み、円滑な業務が期待できる。	(3) 指示事項 体制整備の部分については、今回の評価で最後とする。  <input type="checkbox"/> 再評価対象事業
--------------------------------	---